

2020年12月7日 version

ももいろクローバーZ「3600セカンズ」

2021年1月15日(金)横浜アリーナ

MSRS 新型コロナウイルス感染症対策ガイドライン

株式会社 スターダストプロモーション、ライブ制作班：作成

【目次】

★このガイドラインについて (page 3)

- ① 来場者の感染予防対策と健康状態確認の徹底
- ② 出演者・スタッフの感染予防対策と健康状態確認の徹底
- ③ 会場に対する考え方

■来場者、出演者・関係者・スタッフ、共通の感染対策 (page 4)

- ① 清潔を保つ・飛沫感染・接触感染を防ぐ
- ② 他人のモノを触らない・自分のモノを触らせない

■来場者の感染対策 (page 6)

- ① 事前対策
- ② 来場者の体調の確認と入場制限
- ③ 指定入場時間の設定、事前通達
- ④ 入場時の感染対策
- ⑤ 客席内の感染対策
- ⑥ 観覧時の感染対策
- ⑦ 場内の感染対策
- ⑧ 退場時の感染対策
- ⑨ ハンディキャップエリアに関して
- ⑩ 喫煙エリア
- ⑪ 係員の感染対策

■出演者・関係者の感染対策 (page 10)

- ① 新型コロナウイルス遺伝子検査の実施
- ② 発熱・体調の確認
- ③ リハーサル会場、本番会場への入館・退館時の感染対策
- ④ 控室での感染対策
- ⑤ 飲食の感染対策
- ⑥ 情報共有、紙モノの配布・掲示
- ⑦ 換気と空気からの感染対策
- ⑧ 出上の感染対策
- ⑨ 衣装・ヘアメイクの感染対策

- ⑩ リハーサル現場での感染対策
- ⑪ 本番会場・ステージでの感染対策
- ⑫ 下見・現地調査時の感染対策
- ⑬ 移動・運搬時の感染対策
- ⑭ 各セッション共通の搬入出・設営・撤収における感染対策
- ⑮ 音響部の感染対策
- ⑯ 照明の感染対策
- ⑰ 収録チームの感染対策
- ⑱ 楽器部の感染対策
- ⑲ アルバイト管理部の感染対策
- ⑳ 当日効率を上げる
- ㉑ その他

【周知・徹底】 (page 20)

【最後に】 (page 20)

★このガイドラインについて

ももいろクローバーZ ライブ制作にあたり新型コロナウイルス感染症予防の観点から以下の通り、「MSRS(ももクロ新リアルライブ世界秩序)ライブ感染対策ガイドライン」を元に作成いたしました。国が策定した規制が解除されても新型コロナウイルスの感染リスクは続き、長期化するとも言われています。お客様にエンターテインメントを今後も届けるにあたり、自主的な感染予防対策を徹底し、すべての来場者・出演者・関係者・スタッフの健康と安全の確保を最優先にしながらライブを実施できる環境を作ることが、必須だと考えます。開催に向けての医学的見地に基づいたガイドラインを厳守したいと思います。

ライブ会場には、会場周辺・会場入退場口・通路・客席・トイレ・救護室などに、多くのお客様・係員が集まります。また、ステージ付近・楽屋エリア・バックヤードでは多くの出演者(バックバンド・バックダンサー・ゲスト出演者など含む)、スタッフ・関係者が参集します。どのエリアにおいてもソーシャルディスタンスを保ち、「3密」を避けることは大前提ですが、ライブ当日、また実施に向けたリハーサルや準備も含めた過程では、どうしても密接や接触を避けられない局面が発生します。そうした中で起こり得る感染リスクを徹底して回避し、クラスター(集団感染)を発生させないという強い覚悟と周到な準備が現場のあり方として最も重要なポイントとなってきます。

今回対策の柱として、以下の方針を掲げます。

①来場者の感染予防対策と健康状態確認の徹底

ライブ実施にあたっては、来場者数の制限によるキャパシティコントロールを行い、会場周辺・会場入退場口・通路・トイレなどを含め、ソーシャルディスタンス(2m)を保ち整列・通行を行えるように、来場者にご協力をお願いし、事前の告知や適所に配置された係員が積極的な声かけを行い、徹底します。

入場時は、来場者のマスクの着用を義務化・チェックを行い、検温を実施し、37.5℃以上の発熱がある方、咳・下痢・味覚障害・嗅覚障害等の症状がある方、新型コロナウイルス感染症の陽性と判明した者との濃厚接触がある方、同居家族や身近な知人の感染が疑われる方は入場をご遠慮いただきます。

また過去14日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航及び当該国・地域の在住者との濃厚接触がある方も、入場をご遠慮いただきます。

また、来場者の健康状態や海外渡航歴などの情報を把握し、新型コロナウイルス感染発覚時には来場者の健康情報を、個人情報保護を遵守しながら保健所に対して情報開示を行います。

来場時は、入場時間を分散して(指定入場時間制)、退場時は規制退場により退場者数の分散を行い、来場者が過密にならずスムーズに入退場できる案内を行います。

客席エリアでもソーシャルディスタンスを確保した配席を設定し、十分な換気対策を講じた上でライブ鑑賞中の来場者同志の飛沫対策等を行います。

②出演者・スタッフの感染予防対策と健康状態確認の徹底

リハーサル等の準備期間・ライブ当日を含め「不特定多数の人が接する場所との接触」と「近接の会話」に気をつけることで、感染リスクを減らします。また感染を防ぐためこまめな「手洗い」と「手指消毒」を行います。自分が触れるものは自分で消毒する、物品の共有をしないなど、一人ひとりが責任を持って感染リスクを回避する行動をとります。

毎日の検温や健康状態の確認にも各自で責任を持ち、体調不良の際はあらかじめ決められた連絡先に連絡して、現場に近づかないことを厳守します。現場には必ず新型コロナウイルス感染予防対策リーダーを在籍させます。

県を超えての下見や事前収録は、その会場や出演者の同意のもと、必ず事前に連絡、相談します。感染防止対策を徹底し、必要最低限の範囲であることを確認の上実施します。

リハーサル・打ち合わせなどの準備期間、また会場での設営撤去時等、できる限り少ない人数で、できる限り短い時間に、できる限り安全な距離を確保します。

出演者、関係者に対しては、事前に主催者の対策を説明し、本人の同意を得ます。その際、主催者の都合を無理強いすることがないように、十分に配慮します。

新型コロナウイルスは誰もが感染したり、感染させたりする可能性があります。感染した人が「悪い」訳ではありませんので、体調が優れない人は躊躇せずに声をあげてください。

このマニュアルでは解決できないことが起こったときは、専門家に相談の上、医学的見地に立って判断し、対処します。

③会場に対する考え方

開催会場は会場全体に換気機能を備える会場となりますが、定期的な客席ドアを開放するなどの措置を講じ会場設備の換気機能を十分に機能させたいうで空気循環を促します。

■来場者、出演者・関係者・スタッフ、共通の感染対策

①清潔を保つ・飛沫感染・接触感染を防ぐ

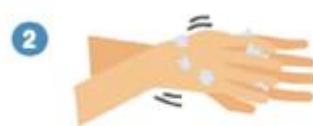
- ・手洗い場で、石けんを用いて頻繁に手洗いをしてください。濃厚な汚染が無い限り手洗いで十分です。
- ・手洗いが出来ない時は、各所に設置された消毒用アルコールで、頻繁に手の消毒をお願いします。
- ・手洗後は、共用のタオルで手を拭いたり、ジェットタオルで乾かしたりせず、自分のハンカチか、設置されたペーパータオルで手を拭いてください。
- ・ボールペン等筆記具などの貸し借りもご遠慮下さい。

正しい手の洗い方



流水でよく手をぬらした後、石けんをつけ、手のひらをよくこすります。

手洗いの前に
・爪は短く切っておきましょう
・時計や指輪は外しておきましょう



手の甲をのぼすようにこすります。



指先・爪の間を念入りにこすります。



指の間を洗います。



親指と手のひらをねじり洗います。



手首も忘れずに洗います。

3つの咳エチケット 電車や職場、学校など人が集まる場所でやろう



正しいマスクの着用



出典：厚生労働省新型コロナウイルス感染症の予防啓発資料

- ・握手、ハグを控え、他人の身体にみだりに触れないようにしてください。
 - ・咳・くしゃみをする場合は、(掌ではなく、ティッシュ・ハンカチや二の腕で)口を塞いでください。
 - ・トイレの蓋は閉めて流してください。
 - ・トイレに人が密集しないように、間隔(2m)をあけて順番を待ってください。
 - ・以下、ソーシャルディスタンスの心構えとして、
 - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス(2m)を守って作業します。
 - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス(2m)を守って話します。
 - どんなときもできる限り、ソーシャルディスタンス(2m)を守って座ります。
 - 喫煙のときもできる限り、ソーシャルディスタンス(2m)を守って吸います。
 - 食事のときもできる限り、ソーシャルディスタンス(2m)を守って食べます。
- (仕事でご一緒する以前の、親子など特定の人とお互いに密接な間柄なら、上記にあたりません)

・新型コロナウイルスは症状が出現する前から飛沫として排泄されるため、無症状でもマスクを着用する必要があります。マスクは自分が体内にウイルスを持つ場合に、口から他人に向けて飛沫感染させるリスクの低減に最適かつ十分ですので、スタッフは全員、個人で調達したマスクの着用を義務とします。

(目から他人に向けての飛沫感染は無いので、他人への感染防止はマスクのみで十分です。

後述するようにフェイスシールドは、他人への感染防止を目的とするものではありません)

・フェイスシールド(ゴーグル・セイフティーグラス)は、目、鼻、口から自分の体内へウイルスが侵入するのを防ぐためのものです。不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多いスタッフに推奨されます。ゴーグル・セイフティーグラスのつけはずしはマスク同様に耳の部分を持ち前面の部分は触らずに付けはずし

をします。使いまわすときはアルコールで拭いて消毒してください。



セイフティーグラス

眼鏡を着用したままでも装着できるものもあります。

・フェイスシールドは、確実にソーシャルディスタンスをとれている場合、着用義務はありません。当日、非常に暑い環境であったり、作業で暑くなったりする場合、フェイスシールドをつけることで熱中症になるような環境でしたら無理につけなくても良いです。ただし、マスクは必ずつけるようにお願いします。

②他人のモノを触らない・自分のモノを触らせない

- ・他人の持ち物、携帯やスマートフォンを使わないでください。
- ・飲み物も他人が触らないようにしてください。回し飲みをしないでください。
- ・持ち物、脱いだ衣服などは他人触らせない。預けないで個人管理をお願いします。

■来場者の感染対策

来場者は、場内、場外含め、常に下記の項目をお守りいただくようご協力をお願いします、係員も積極的に注意喚起させていただきます。

- ・口と鼻を覆うマスクを着用すること
- ・大声での会話・観覧中の声援を行わないこと・接触を最小限にとどめること
- ・来場後に新型コロナウイルスの感染が発覚した場合は、感染者から主催者に報告をすること

①事前対策

- ・来場者は健康状態を事前に体調管理表を提出していただきます。
- ・施設や自治体などの感染対策の方針に従って新型コロナウイルス接触確認アプリ（COCOA）の登録を来場客に促します。

来場者の中で感染者が発生した際、感染拡大防止のため、個人情報保護を遵守しながら保健所に対して必要な情報開示を行います。

- ・ライブ当日、紙チケットをモギる（ちぎる）という係員との接触をしないよう、非接触型のファンクラブのIC会員カードを使いデジタルモグリを行います。
- ・チケットの販売キャパ設定を5,000名（通常キャパの約1/2）にします。
- ・指定入退場時間区分を設置し、事前に来場者に伝達し、入退場口の集中を避けます。

②来場者の体調の確認と入場制限

健康状態の情報、当日の検温により、以下の事項に該当するお客さまにつきましては、来場・入場を制限します。来場者には、開催日当日に掲示されている下記の体調管理項目を確認するよう促し、該当する来場者は入場を控えていただきます。

<下記の項目に当てはまる方は、会場の来場をお断りします>

- ・会場に向かう前に自宅で検温していただき、37.5 度以上の発熱がある方
- ・ライブ当日から過去 1 週間以内に咳・くしゃみ・倦怠感などの風邪の症状がある方、下痢・味覚障害・嗅覚障害等の症状がある方
- ・新型コロナウイルスが陽性と判明した者との濃厚接触がある方、同居家族や身近な知人の感染が疑われる方
- ・過去 1 4 日以内に政府から入国制限、入国後の観察期間を必要とされている国・地域等への渡航及び当該国・地域の在住者との濃厚接触がある方
- ・会場入場整列中の係員による検温で 37.5 度以上の発熱が確認された場合は入場できませんので、お帰り頂きます。

③指定入場時間の設定、事前通達

ライブ当日は 2 時間の開場時間に対し、指定入場時間区分を設定し、入り口の密な状態を避けます。

公共交通機関乗車時も、マスクは必ず着用し、お客様同士の会話を控えめにさせていただきよう、ご協力をお願いします。

④入場時の感染対策

来場者はエントランスにて消毒・検温を行います。

入場待機列では常に 2 m のソーシャルディスタンスを確保します。

エントランスを使い、規制入場を行います。

来場者には事前に集合時間と集合場所を指定し通知をいたします。

各入り口に入場対応レーン 12 列を設置し、1 人 10 秒の対応を想定します。

各レーンは入場時間 2 時間で 1 レーン当たり 500 名の対応可能な体制を準備します。

・チケット購入者は、事前のチケット発券時に自分の座席エリアが告知されます。席を伝えることにより、場内の移動をスムーズに行えるようにします。

チケット購入者は、オフィシャルサイトにも座席図面を記載いたします。

また、入場区分はプレイガイドからのメールやオフィシャルサイトにてお知らせをいたします。

・消毒

場内に入場した後は、客席・手摺・トイレなど様々なものに触れる可能性があるため、待機列の先頭で両手のアルコール消毒場所を設置します。

消毒する係員はマスク・フェイスシールドを着用します。

・検温

来場者の頭部を非接触型体温計によって検温を行います。

これにより 37.5 度以上の発熱者を発見した場合は、係員が対象者を列から誘導して移動させて、隔離した場所で再度検温を行います。ここでも 37.5 度以上の発熱を検温した場合は、当日はライブに入場できずお帰り頂きます。

・手荷物検査

来場者の手荷物の中に、危険物・凶器となりえるもの、撮影や録音の機材などが無いかを確認します。
係員と来場者の手荷物が接触しないように、来場者が自身のカバンの中身を係員に見せるようにします。

⑤客席内の感染対策

・指定席(全席)

指定席は、ソーシャルディスタンスを鑑み、前後左右の間隔をあけて配席をします。

観覧中は自身の座席位置でどなた様も着席でご観覧いただきます。自分の座席以外の位置や通路に出たの観覧は禁止します。着席しましたら、なるべくご自身のお席で開演までお待ちいただくようご協力をお願い致します。

また、お客様のお荷物は足元においていただき、他人の飛沫がかからないように防止していただきます。
空席に荷物を置くことは控えていただきます。

⑥観覧時の感染対策

- ・観覧中はマスクを着用して下さい。
- ・観覧中は大声を出す会話、コールや声援はできません。
- ・立った状態での観覧はできません。公演中も着席してご観覧ください。
- ・観覧中は客席の食事は禁止です。
- ・着席を指定されている自身の座席、割り当てられたエリア以外での観覧はできません。
- ・観覧中、体調不良の様子が見受けられた方には係員がお声掛けさせていただき救護室へご案内いたします。
- ・係員の指示に従って頂けないお客様には、ご退場いただきます。

⑦場内の感染対策

・通路

入場口通過後は、移動時に周囲の方と常にソーシャルディスタンスを保つようお願いいたします。

場内の大きな通路は極力強制導線による一方通行とします。(消防の許可が出る範囲で)

来場者が自分の席に辿り着くまでに時間がかかったり、通路に立ち止まったりしないよう、

事前にお客様に座席情報、座席配置図を公開します。

また、通路には適所に案内係員を配置して、立ち止まり迷ったりしている来場者の対応を行います。

係員は極力2m(最低でも1m)のソーシャルディスタンスを保ち案内いたします。

通路での歓談は自粛を促し、開演までご自分のお席でお待ちいただくよう、係員が注意喚起を行います。

・救護室

地元の消防署と連携します。

常時、医師看護師が常駐しております。救護室は、事前にアルコール消毒した部屋を使用します。

室内の備品もアルコール消毒をしておきます。

体調不良者はソーシャルディスタンスを確保して、医師看護師の処置・指示の元、室内でお休みいただきます。

体調不良者を寝かせる必要がある際は事前にアルコール消毒をしたリクライニングチェア(サマーベッド)と布団を使って寝かせますが、使用後アルコール消毒をしやすいリクライニングチェアの使用を優先します。

布団を使用して救護対応を行った場合、その布団は当日使用しません。

備品などは、使用ごとにアルコール消毒を行い、備品等を介した感染を防ぎます。

体調不良者がお休みになっている場所での備品のアルコール消毒は、消毒液が体調不良者にかからないように風向きなどを注意します。

入場時の検温で37.5度以上の発熱がなくても、救護室で37.5度以上の発熱があった場合は、場内には戻れま

せん。医師看護師の正しい処置・対応の後、帰宅のお願いをします。

救護室に入る際は、靴の裏をアルコール消毒します。

救護室での医師看護師・サポートするスタッフは、マスクとフェイスシールドを着用し、常駐する医師看護師の指導の元、必要であれば手袋の着用も行います。

・トイレ

トイレの列ができる場合、ソーシャルディスタンス(2m間隔)を保ってお並び頂きます。

男性用便器では1つおきに使用し、使用できる便器の数の調整をします。

手洗い後は、共用のタオルで手を拭いたり、ジェットタオルで乾かしたりせず、自分のハンカチで拭いてください。

扉が付いているトイレを使用する場合、扉のノブ・取っ手はあらかじめアルコール除菌しておきます。

トイレの列整理案内スタッフが、待機中のお客様の手にアルコール消毒をします。

便器の蓋がある場合は、水で流すときは蓋を締めて流して下さい。

・飲食

会場内でのお食事につきましては、禁止とさせていただきます。

飲み物は摂取していただいて構いません。また、家族間・知人の間柄であっても、飲み物の回し飲みは禁止します。

また、お飲み物のごみは場内では処分できませんので、持ち帰ってください。

・ゴミ箱

場内では新型コロナウイルスのウイルス拡散の要因になるため、ゴミ箱は設置しません。

ご自身のごみは各自お持ち帰りください。

⑧退場時の感染対策

終演後は規制退場を行い、来場者が過密にならないように係員が退場人数を調整しつつ、ソーシャルディスタンスを確保しながら退場案内を行います。

来場者は係員の指示があるまで、終演後は自身の席から移動できません。

通路は強制導線による一方通行とし、逆流はできません。

終演後、トイレ・救護室などへの立ち寄りを除いては、場内で立ち寄ったり立ち止まったりすることはできません。

⑨ハンディキャップエリアに関して

ハンディキャップエリアを利用する来場者については、別途専用の対応係を付け、特設の入場口より前述の入場手順に沿って入場します。観覧エリアはソーシャルディスタンスを守りつつ設置し、入退場に支障のない入場口よりご案内し、個々に消毒・検温・認証などの対応をします。

⑩喫煙エリア

喫煙エリアでは、不特定多数の来場者がマスクを外して集まることとなります。

また喫煙エリア利用時・また喫煙エリアに入るための列も、密集状態になりやすいため、喫煙エリアを閉鎖します。

⑪係員の感染対策

検温・消毒・手荷物確認・認証・救護・警備・客案内等で多数の来場者と対面する係員の感染対策として、マスクの着用を義務付けます。

また飛沫対策として、検温・消毒・救護対応のスタッフはフェイスシールド、セイフティークラスで飛沫から目を守ります。

また、マスクを外した方と至近距離(50センチ以下)に接近する場合はフェイスシールドを着用します。

■出演者・関係者の感染対策

①新型コロナウイルス遺伝子検査の実施

・出演者全員と出演者に係わるスタッフに対しては事前に新型コロナウイルスの遺伝子検査を実施します。陽性になった場合は出演できません。

②発熱・体調の確認

・出演者・スタッフは全員、毎朝の体温測定を徹底し、発熱がないことを確認し、各自で記録した体調管理表を記入し、制作担当スタッフに提出します。制作担当スタッフは日ごとに(リハーサル・本番含む)体調管理表を管理・保管します。

(体温測定の結果 37.5 度以上の場合、スタッフは上司に、出演者は事務所マネージャーに連絡をお願い致しません。)

・出演者・スタッフは新型コロナウイルスの遺伝子検査を受けた後に、新型コロナウイルス感染症を疑わせる症状(発熱、咳、咽頭痛、息切れ、呼吸困難感、筋肉痛、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常、頭痛、気分不快など)が新たに生じた場合は申告してください。連絡の上、保健所に連絡し、医療機関等を受診して新型コロナウイルスの遺伝子検査を受けて下さい。その後、自宅または宿で待機してください。

上記の症状があった場合、新型コロナウイルスの遺伝子検査の結果が分るまでは参加を見合わせていただきます。その場合、出演者の内容を一部変更する場合がございます。

・新型コロナウイルスの遺伝子検査が陰性で、症状が軽く業務に支障ない方は参加できますが、症状が強い場合や症状が長期間続く場合は医療機関を受診して診察を受け、必要な場合はインフルエンザ等の検査を受けて下さい。

・出演者・スタッフは全員、入館時、玄関・楽屋口にて非接触型体温計にて確認をします。

(37.5 度以上の場合は帰宅、または宿で待機をお願い致します。)

・現場遂行中に体調が悪くなった場合は、出演者・スタッフとも各セクションの管理者に相談してください。体温上昇を自覚した時も、非接触型体温計にて確認をお願い致します。

・コンサート制作会社 H.I.P.が配布する「行動記録シート」に毎日の行動の記録をお願い致します。

(※平時は開示の必要性はありません。万が一、現場から感染者が出た場合に、保健所の調査を受ける際の必要書類になります。)

・コンサート当日の朝、体調に不安がある時は、上司に連絡して、現場に行くのを控えてください。(ももいろクローバーZ 及び出演者は、マネージャーに連絡し、宿・自宅での待機をお願いいたします)

・家族に体調不良者が出た場合も、同様に上司に連絡して、撮影現場に行くのを控えてください。

(ももいろクローバーZ 及び出演者は、マネージャーに連絡し、宿・自宅での待機をお願いいたします)

・現場遂行中でも発熱、咳、咽頭痛、息切れ、呼吸困難感、筋肉痛、全身のだるさ、下痢、味覚・嗅覚異常、頭痛、気分不快などの自覚症状がないか、常に自分の体調に気を配ってください。

・リハーサル・本番中で、もし少しでもこのような症状を感じた場合は、すぐに上司に報告して現場を離れてください。(御出演の皆さんは、近くにいるマネージャー、制作スタッフに連絡をお願いいたします)

・体調不良者、発熱の出演者・スタッフが発覚した場合、直ちに自治体の保健機関に連絡をとれる体制づくりを強化します。(リハーサル会場・本番会場ともに)

また、保健所・医療機関等の公的機関から提出開示の協力を求められた場合には、個人情報保護に留意した上で提供開示します。

③リハーサル会場、本番会場への入館・退館時の感染対策

- ・公共交通機関を使うスタッフに考慮し、ラッシュ時を避けた出勤が可能になるよう配慮します。
- ・余分な段取りが増える分、従来以上に余分に時間がかかるのを見越して、所要時間を計算します。
- ・スタッフ、御出演の皆様の入り時間の設定にも、従来以上に早めに入って頂く場合がございます。
- ・一度に多くのスタッフが入館、その待機のために集中しないように、時間差の入館時間を設定します。
- ・入館の際の集中を防ぐため、セキュリティ面を考慮した入口の分散も検討します。
- ・入館時は扉前に人がたまらないように、ソーシャルディスタンスをとって待機します。
- ・入館時に検温をし、事前に記載してもらった体調管理表の提出をもって、入館パスを発行します。
- ・入館時にウイルスを持ち込まないように、楽屋口等に設置しているアルコール消毒液を必ず使用してから楽屋やステージに進んでもらいます。

④控室での感染対策

- ・控室はあらかじめアルコール消毒しています。入室時は靴の裏にアルコールを噴霧してください。
- ・控室では常時マスクを着用し、ソーシャルディスタンスを保ってください。
- ・控室はできる限り扉と窓を開けて、空気循環を促します。また、閉めないといけない場合は30分に一度は開放して空気循環を行います。
- ・控室で限られたスペースのためにスタッフ同士が向かい合わせになりソーシャルディスタンスを保てない場合、必要に応じてスタッフ間に透明ビニールシートなどを立ててガードする。もしくはフェイスシールドの着用をする。
- ・出演者・スタッフ・アルバイトのホットミールを廃止し、個包装のお弁当で提供します。
- ・2ℓ ペットボトルなどの紙コップを用いたドリンク提供をやめる。飲みきりタイプで提供します。他人のものと混在しないように各自保管をお願いします。
- ・会場内での喫煙所はマスクを着用できないため、廃止します。

⑤飲食の感染対策

- ・食事の前後には、石けんで手洗いをお願いします。
- ・個室をご用意できた出演者の方は、積極的に個室での食事をお願いします。
- ・残念なことですが、会話を弾ませるのは、お食事を終えてマスクをするまで我慢しましょう。
- ・セルフサービスのケータリングは採用せず、個別包装されたお弁当スタイルにします。
- ・ソーシャルディスタンス(2m)を可能にすべく広い休憩場所確保に最善を尽くします。
- ・食事中の「密」を避け、食事時間を前半組・後半組など「時差」をお願いすることがあります。
- ・場合によっては、各車両の中でのお食事を推奨させていただくことがあります。
- ・お菓子等を「お手すきの時に、各自手に取ってください」の従来スタイルは廃止します。
- ・紙コップを設置して皆がシェアするタイプの飲み物提供は廃止して、個別のボトルにします。

個人ボトルも各自管理し、誤って他人が手に取って飲まないように管理し、持ち帰ります。

- ・ステージドリンクは従来のように飲みやすいようにストロー刺しで用意しますが、そのままステージに置くことはできません。ドリンクを飲むタイミング以外では、1ペットボトルごとにビニール袋などで蓋をかぶせておきます。

⑥情報共有、紙モノの配布・掲示

- ・紙類の配布も「各自手に取ってください」ではなく、できるだけ少ない人の手を経ていきわたるよう、チームごとにチーフが配るなど、対策をします。
「各自手に取ってください」のスタイルになるときは、横にアルコール消毒スプレーを設置し、消毒後に取ってもらうようにいたします。
- ・スケジュール等伝達事項は、口頭での連絡をできるだけ控えて「一斉メールで配信」などで頻繁に伝達するなど、対策を施します。
- ・事前にネットミーティングを行い、リハーサルがスムーズに行えるようにします。

⑦換気・空気からの感染対策

- ・リハーサル会場など密閉空間になる場合は、換気回数を毎時2回以上、30分に1回以上数分間程度ドアまたは窓を開けます。
- ・空気の流れを作るため大型扇風機を使用します。
- ・複数の窓がある場合は、二方向の壁の窓を開放します。窓が一つしかない場合はドアを開けます。
- ・本番中でも音漏れに影響でない限りドアを解放しておきます。
- ・音漏れに影響しない限り「大道具用シャッター」を常に全開のままにします。
⇒ 従来、搬入搬出スタッフの出入り時以外、密閉するのが基本でした。
リハーサル中・コンサート本番中も含めて上記のように、常にステージを密閉しないことで、換気効果を最大限に保ちます。
- ・リハーサルスタジオやステージ場所に、二酸化炭素濃度の測定器を設置して、室内の空気が1000 ppm以下に保たれているかどうかを確認します。
- ・給気口と排気口の位置を確認して、一定方向へ気流があることを確認します。
同時に、給気口と排気口付近に、換気に支障をきたすような障害物がないことを確認します。
- ・ステージセットは換気ができる設計とし、四方を囲んだセットにならないよう配慮します。
- ・四方を囲む必要がある場合は、送風機で空気の流れを作るなど、換気を行うようにします。
- ・ステージセットの配置は人が密集しないようレイアウトし、また動線や作業スペースを広くとれるようにします。

⑧演出上の感染対策

- ・なるべく密を避けるような演出を心がけます。
- ・2メートル以内に接近するダンス等の演出は、出演者の皆様の同意を頂いた上採用します。
- ・ダンス、振り付け以外接近する場合は極力対面状態(顔と顔が相対する状態)にならないように心がけます。
- ・出演者同士が接触する際には、本番直前に、当事者に手指の消毒を行っていただきます。
(参考：厚労省HPのQ&Aより)

濃厚接触かどうかを判断する上で重要な要素は二つあり、

- 1.距離の近さと
- 2.時間の長さです。

必要な感染予防策をせずに手で触れること、または対面で互いに手を伸ばしたら届く距離(1 m程度)で15分以上接触が合った場合に濃厚接触者と考えられます。

⑨衣装・ヘアメイクの感染対策

- ・出演者の皆様の入り時間に「時差」を作りたいので、以前より早めにお越し願う場合があります。
- ・櫛、ヘアブラシは、出演者本人でなるべく持参してください。
- ・本番・リハーサル衣装をご自身の御自前の衣装として活用させていただきよう、お願いする場合がございます。また、ご自宅から着用したまま、御来局いただくようお願いする場合がございます。
- ・ももいろいろクローバーZならびに出演者以外で、専門の衣裳スタッフのみ衣装に触れることを原則とします。
- ・ワイヤレスマイクの取り付けを、御自身でお願いする場合がございますのでご協力ください。
(※ワイヤレスマイク装着時には、音響スタッフが対応することがあります。詳細は後段に。)
- ・衣裳スタッフは、必ずマスクを着用し、衣装を一着触るごとに手をアルコール消毒します。
- ・個室をご用意できた出演者の方は、衣装への着替えを、御自身の手でお願いいたします。
- ・共用衣裳部屋での着替えは、同時に複数のひとの着替えをしないで「一度にひとりずつ」とします。
- ・アクセサリや眼鏡などは、一度使用するたびにアルコール消毒します。
- ・衣裳は可能な限り、一度使用するたびに洗濯・乾燥します。乾燥が間に合わない場合、アルコールで消毒します。
- ・できるだけ広いスペースをメイク場所とさせていただきます。
- ・出演者・スタッフは全員、メイク場所で作業する前に、石けんで手洗いをお願いします。
- ・他の出演者の方と2メートル間隔を空けて、メイク作業をします。
- ・「御自身で着替え、メイク後、スタッフが最終確認」の段取りにご協力いただく場合がございます。
- ・メイクスタッフは施術相手が変わるたびに、手洗い、もしくはアルコール消毒をします。
- ・ウイルスに素手で接触するのを防ぐために手袋の使用を一度は検討しましたが、汚染された手袋をしたままの作業は逆に感染リスクを増大させます。素手で作業をしてこまめに手洗いの方が良いと判断しました。
- ・メイク道具は出演者ごとに個別のものを使用し、使いまわす場合は施術相手が変わるたびに、アルコール消毒を行います。
- ・メイク施術にお待ちいただく際の椅子は、対面式を避け、同一の方向を向くような配置とします。
- ・個室、メイク場所、テーブル・ソファは毎日入室前にアルコール消毒、退出中においても適宜消毒作業を励行します。
- ・本番中のメイク直しは、最低限に控えるように心がけます。
- ・フェイスシールド、口元シールドは、取り外す時はシールド面には手を触れないようにして1日1回以上、消毒してください。
- ・屋内でのマスク、フェイスシールド、口元シールドが、体に負担になる可能性があります。こまめに水分を補給し、他人との距離をとって適宜取り外して休憩を取ってください。
- ・必要に応じて、ゴーグル、指サック・除菌スプレーなど適切な個人用保護具も活用します。
- ・場合によっては、本番直前まで透明ビニール製バリヤを用いて、出演者間を隔絶します。
- ・透明ビニール製バリヤは、1日1回以上、消毒します。
- ・複数の人が触れる備品、ドアノブなどは、1時間ごとに1回、消毒します。
ドアノブなどを消毒した雑巾なども1時間に1回ごと処分します。

- ・マスク、フェイスシールド等、飛沫感染の要因となる着用物は会場で処分せず、各自持ち帰って処分します。
- ・飛沫感染を防ぐ衣装・着用アイテム(ベールなど)があれば、工夫し着用します。

⑩リハーサル現場での感染対策

- ・リハーサル場所では可能な限り、床面・楽屋・備品等を入館前にアルコール消毒します。
- ・リハーサル場所では可能な限り、常に大型空気清浄機を2台、作動させておきます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、広めのスペースを確保し、換気と空気清浄を試みます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、スタッフは会話をする際にステージ外に出ます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、スタッフが持ち込む装飾要素を削減し、現地のありもの活用を試みます。
- ・リハーサル場所では可能な限り、外来者を出来るだけ避け、必要な人のみその場にいる様にします。
- ・リハーサル後に、場所の消毒をします。
- ・リハーサル場所では消毒用アルコールで、出演者やスタッフの手や衣装の消毒を可能にします。
- ・靴、靴の裏にも消毒用アルコールをスプレーしてからスタジオに入ってください。
- ・リハーサル場所の装飾や、撮影、清掃にかかる時間をできるだけ正確に共有します。
- ・休憩では、社会的距離(ソーシャルディスタンス)を取れるようスペースを広げます。
- ・出演者の皆様には、付き添いの方の人数を最小限に留めるようお願いいたします。

⑪本番会場・ステージでの感染対策

- ・会場では、控室・ステージ・リハーサル場所などでは、可能な限り、床面・備品等を入館前にアルコール消毒します。
- ・各セクションから会場やステージに入る人数を、できるだけ削減します。
- ・ステージでのリハーサル時も必要最小限にスタッフを限定します。
- ・技術スタッフは、部署ごとに離れて待機し、できるだけ他部署との直接会話のやり取りを減らします。
- ・技術スタッフは、部署ごとに会場・ステージへの出入り時間にも若干の「時差」をつけて「密」を避けます。
- ・ステージ内での、スタッフ同士の会話は短めにします。長い話はステージから離れたところに移動して、会話をします。
- ・会場ではインカム、トランシーバーを他人と共有をしないように、自分専用に名前を書いて貼り、消毒します。
- ・自分のトランシーバー本体はコンサート期間中、(バッグ・ケース類も含め)各自で管理・保管・消毒します。
- ・トランシーバーのバッテリー充電は、バッテリーのみを制作に預け、制作部で充電します。制作は充電済みバッテリーを、消毒して戻します。
- ・ステージでの場当たりは、同じステージ上でスタッフ2人までが参加可能とし、他のスタッフはモニター前などで分散して確認します。
- ・演出や制作スタッフが手に触れても良い美術セットを(美術チームと相談の上)限定します。
- ・リハーサル後のステージ上での修正作業、は舞台監督の指揮下で各セクションがステージに交代で入りし、ステージ上でのスタッフの過密状態を避けます。なるべく迅速に行うよう最大限努力します。

⑫下見・現地調査時の感染対策

- ・下見や現地調査は最小限の人数(基本的には5名以下)、1時間以内に限ります。
- ・6名以上の下見の場合は、時間を区切ってスタッフを入れ替えます。
- ・打合せは、各担務チーフのみで行います。それ以外のスタッフはリモートで参加します。

⑬移動・運搬時の感染対策

- ・車両の運転手は、ハンドル等、複数の手に触れる部分を随時、消毒します。
- ・車両の運転手は、他の運転手とシェアせず、自分専用の車両1台の準備から片付けまで携わります。
- ・車両の運転手は、非接触型体温計で検温します。
- ・車両の運転手は、体調を崩した人の求めに応じて、非接触型体温計で検温します。
- ・車両の運転手は、換気のためにできるだけ、車両の窓は開けておきます。
- ・乗車する全員が、車内ではマスクを着用します。
- ・大型車両の場合、乗車する全員が、お互いに隣の席を空けて、座ります。
- ・タクシーでの移動は、極力少人数で乗車します。

⑭各セクション共通の搬入出・設営・撤収における感染対策

- ・スタッフ、アルバイトにかかわらず、作業前は全員手をアルコール消毒してください。
- ・作業エリア移動毎に手指のアルコール消毒をしてください。
- ・設営エリアで、ここから先は消毒済みというクリーンエリアを設定し、そこに入るときは足の裏、機材の接地面(キャスター等)をアルコール消毒します。
- ・マスクの着用を徹底します。
- ・ソーシャルディスタンスを確保できない場合はフェイスシールド・セーフティグラスを着用します。フェイスシールドの着用で長時間作業による熱中症に気を付けて、チーフが部下の体調管理も徹底します。
- ・各セクションの搬入設営が進み、ソーシャルディスタンスを確保できるようになったら、チーフの判断でフェイスシールドの着用は外して大丈夫です。
- ・各セクションが同じ場所での作業にならないように、タイムテーブルを考慮します。
- ・現場で密になりそうな状況が生じた場合、優先順位を指示します。
- ・一人では安全が担保できない場合は、複数で協力して作業するが、2m以内に近づく時間は最小限にとどめるようにします。
- ・声を出しての注意喚起後、その作業に携わったものは、アルコール消毒・手洗い・うがいを行うようにします。
- ・複数人数での作業の場合、接触する対象物・人を同じグループにします。
- ・他セクションの機材には触らないでください。
- ・素手で他の人が触れた機材に触らないといけない場合は、こまめに手をアルコール消毒する。
- ・軍手着用で作業する場合は、一作業につき交換する。使用後の軍手については、ビニール袋に入れ回収することとする。
- ・軍手にはウイルスが付いていると想定して使ってください。つまり「軍手で顔を触らない」「必要のない時はすぐに外す」「外す時は裏表になるようにして、表部分を触らない」「もし可能なら、軍手をこまめに交換して、使用後の軍手は洗濯する」などを実行してください。

(家庭用洗剤の普通の洗濯で大丈夫です)

- ・打合せ等は広い空間で距離をとって実施してください。

- ・セット内の小道具などを動かしたい場合、必ず美術部に依頼し、自分では触らないでください。
- ・ガナリマイク、トラメガフォンの使いまわしはできません。専用のものをご用意ください。
- ・筆記用具、工具などの使いまわしはできません。自分のものを管理しながら使用してください。
- ・自分のものであっても、マスクを外して筆記用具・工具などを口に啣えることはご遠慮下さい。

⑮音響部の感染対策

- ・倉庫でのマイクスタンバイ時は手袋を着用してパッケージしてください。
作業終了後手袋は廃棄してください。
- ・積み降し、スピーカースタック時にソーシャルディスタンスをキープするのは非常に難しいのが現実です。マスクを着用し十分注意して行ってください。
- ・飛沫が付着すると予想されるマイク(VO,H/S MIC,CHO,アナウンス、舞台監督ガナリ、等)の使い回しはしないでください。
イベントでのプランニング時もマイクの使い回し出来ない旨を制作サイドと相談し、難しい場合はウインドスクリーン、グリル交換等に対応してください
- ・マイク使用の前後は手洗い、手指消毒、うがいをしてください。マイク仕込み時は使い捨て手袋着用し、マイク仕込みが終了したら手袋は廃棄してください。
- ・回線チェックはスマートフォンのメトロノームアプリや発信器等を工夫して使い、喋ったり、接触したりしてのチェック行為はしないでください。
- ・アーティスト、メンバーが使うマイクはチューニング時でも喋らないでください。
必要がある場合はウインドスクリーン、グリル交換、消毒を徹底してください。また行為を制作サイド、事務所側に認識してもらってください。
- ・VOマイク等は直接渡さず、マイク用籠等から受け取ってもらいます。籠の中は常に清潔なタオルを使用してください。
ヴォーカリストが複数いる場合は人数分の籠を準備してください。
- ・IEMの脱着に関しては極力本人にやってもらう事をマネジメントと確認してもらうのが好ましいですが、音響会社でケアする場合はマスク、ゴム手袋着用でアーティストに接触してください。
場合によってはフェイスシールド着用してください。マイク同様直接受け渡しはしないでください。
- ・出演者と距離は2メートルを目安に(最低1メートル)確保する事を意識してください。
ステージ上のメンバーには必ずコミュニケーション用のマイクを準備し直接顔を近づけてモニターオーダー等を聞かなくても良い環境を作ってください。
- ・バラし時はヴォーカルマイク、コーラスマイク、飛沫が付着していると予想されるマイク等は手袋を装着して除菌してパッケージしてください。
マイクを触った手袋はすぐに専用のゴミ袋に捨ててから作業再開してください。
- ・消毒に使用したアルコールウェットティッシュや使用済みマイクを触った手袋は二次感染・三次感染を防ぐため、他のゴミと一緒にせず専用のゴミ袋に捨て管理、処分してください。
- ・マイクに関しては倉庫に戻ってからウインドスクリーンは石鹼水で洗浄し、マイク本体は除菌後72時間隔離して別現場には回さないでください。倉庫内に隔離スペースを確保してください。

⑩照明の感染対策

- ・どの機材を誰がセッティングし、使うかを一貫化させます。
それが難しい場合は、作業終了後、積み込みの際に機材の消毒を実施いたします。
- ・作業時は手袋、マスクまたはフェイスシールドを着用します。作業前後に手袋をはめる前と手袋をはめた状態の両方でアルコール消毒もしくは手洗いを実施いたします。
- ・機材の積み込み、積み下ろしについては、自分で使う機材は自分で行います。主要機材には使用者の目印付けます。機材車内での作業は複数人では行いません。
- ・自分のエリアを決め、可能な限りその範囲で作業します。(担当の器具を決める)
一人での作業が多くなるため、セッティング・操作にはいつも以上に時間をかけ、安全を最優先にします。
やむを得ず機材を受け渡しする際は消毒を実施いたします。
- ・必要になる可能性のあるものは、なるべく手元に置いておきます。(移動を最小限にする)
- ・コンサート開始前と終了時には使用機材の消毒を実施いたします。
- ・担当エリアを決め、可能な限りその範囲で行います。
- ・バトン昇降の担当者は固定します。
- ・調光卓については、担当者変更時の作業前に消毒を実施いたします。

⑪収録チームの感染対策

- ・カメラと三脚はナンバリングし、自分の割当以外は素手で触らないでください。
- ・どの機材を誰が使うかを、一貫化させ、他人の機材に触れないでください。
- ・始業時と終業時に機材のノンアルコール消毒を実施してください。
- ・一人でセッティング出来る範囲の機材で撮影してください。
(ジブやレールはなるべく使用しないでください)
- ・複数人でセッティングする場合は手袋を着用してください。
- ・カメラマン同士が密接しないようできる限り 2m 離しますが、距離を保てない場合はフェイスシールドやセーフティーマスクで感染対策をして下さい。
- ・役者への近接撮影を行う際は十分に配慮してください。
- ・箱馬や砂袋などに目印をつけ、他担務との混在を避けてください。
- ・バッテリーケースは、各カメラ分けてください。
- ・撮影時、各カメラマンはカメラと三脚を各自で設営してください。
- ・撮影補助がステージに入るのはケーブルとバッテリーを受け渡すときになるべく限定してください。
- ・撮影時は光ケーブルを色分けし、ケーブル運用は撮影補助に任せてください。
- ・三脚の調整は自分一人で出来る範囲で行ってください。
- ・撮影時は、外せる壁は外して撮り口を確保し、セット内の通気性を良くしてください。
- ・壁を全面塞いでセットに乗り込む撮影を極力少なくしてください。

⑫楽器部の感染対策

- ・一度楽器をセッティングしたあとは必要が無い限り、ミュージシャン以外の人は触れないようにしてください。
- ・ギターの持ち替えなどは、演出上、また楽曲のアレンジ上 問題のない場合はミュージシャンが自分で行うようにしてください。スタッフが行う場合は必ず手袋をして受け渡しをするようにしてください。
- ・楽器に触れないとできない機材のチェックなどは必要最低限をスタッフで行いますが、基本はミュージシャン本人が行うようにしてください。

- ・チェックの際、スタッフも触れる可能性のある楽器の鍵盤部分など、アルコール消毒ができる部分は徹底的にしておくようにしてください。

⑨アルバイト管理部の感染対策

<アルバイトスタッフ管理対策>

- ・集合時に検温・体調管理体調管理表への記入を実施いたします。
- ・集合場所に密にならないよう、アルバイトチーフによる集合場所内での待機間隔の徹底をいたします。また、集合時のマスク着用義務を事前に強く周知します。
- ・検温時及び体調管理表への記入時に基準値等(37.5度)を上回る等の疑わしき症状が見受けられた場合には、当人に通告し合意をした上で、帰宅させ業務には従事させません。
- ・体調管理体調管理表は、社内での保管を徹底し、後日、保健所・医療機関等の公的機関から提出開示の協力を求められた場合には、個人情報保護に留意した上で提供開示いたします。

<衛生環境予防対策>

- ・入館、退館時及び業務中や休憩時等には必ず手・指の消毒又は手洗いを行わせます。
(アルコール消毒液・モンダミン(市販))
- ・アルバイトスタッフ1名に1つ消毒液(50ml)を携帯させます。
- ・衣類に対してもこまめな消毒をさせます。(ファブリーズ等)
- ・控室の使用は、交代少人数(限定数)とし、密となる環境を生まないように十分気を付けます。
- ・ミーティングや休憩時は、十分な保安距離を確保させ、密着した隣同士の環境は作りません。
- ・アルバイトの手荷物は、個別の袋を与え、他者が物品を直接触れないように十分気を付けます。
- ・運営備品は、事前に消毒されたものだけを持ち込み使用し、複数人での使用は行いません。
(複数人で使用せざる負えない場合には、管理者立会いの下、消毒の目視確認を行い、受渡しを行います。)

<飛沫感染予防対策>

- ・業務に従事する際には、マスク・フェイスシールド・マウスシールドの着用を義務付けます。
(着用物は、従事環境(屋内・屋外)に於いて、その組み合わせを変更します。)
- ・アルバイトが使用した着用物は、専用ごみ袋(2次的感染防止)を用意し、使用後廃棄致します。

<接触感染予防対策>

- ・業務に従事する際には、手袋(布・ゴム・ポリエチレン・皮等)の着用を義務とします。
(着用物は、従事環境(搬入出業務・案内業務・ケータリング業務等)により変更します。)
 - ・使用した手袋は、専用ごみ袋(2次的感染防止)を用意し、使用後破棄致します。
- なお、個人の所有物である着用物に関しては、洗濯・消毒を徹底させます。
- ・当日使用する係員用の貸与シャツ類・腕章は、事前に洗濯・消毒したものを貸与し、使用後は、専用の回収袋にて回収を行い、クリーニングを行います。
(2次的感染防止の観点から連日の使い回しは行いません。)

<衛生環境保全対策>

(換気)=警備

- ・主催者、会場側と相談を行い、換気対策の一環として、部外者の侵入の防止対策を行った上で、入場口・ホワイエ・通用口・搬入口等の扉を開放します。

(消毒)=誘導案内・ケータリング

- ・会場施設の必要と思われる個所(控室・通用口ドアノブ・ロビー手摺・客席等)の巡回消毒を行います。
- ・手洗い場に、ハンドソープ・消毒液・ペーパータオル・ゴミ袋の設置を行います。

(接客対応)=誘導案内・ケータリング・受付

- ・来場者、スタッフに不快感を与えないように適切な距離を保ちご理解を求めながら接客を行います。
- ・不要な接触や会話を減らす為に、誘導案内表記物を増やし、スタッフ・来場者の目線を意識した表記物の張り出しを行います。
- ・来場者、スタッフの誘導案内は、焦らずゆっくりと適正距離を保った上で、安全に適切に行います。(走らせる、焦らせるような文言や立ち居振る舞いは無いように十分配慮する)
- ・会場環境、周辺環境に留意しながら、来場者・スタッフへの身体的ストレス(暑さ・感染予防)等を少しでも緩和出来るよう、柔軟な対応を心掛けます。

<緊急時対応>

- ・万が一、体調不良者又は疾患系症状のスタッフ・来場者を見つけた場合や、自分の体調がすぐれないと感じた場合には、すぐ現場リーダーに報告し、対応を委ねます。(対応交代後には、手洗い・うがい・消毒を繰り返し、業務を一時中断とします。)
- ・現場リーダーは、現場担当社員・主催者に報告し、その場の環境保全を行います。(立ち入り禁止区域等のエリア確保)
- ・医師、看護師がいる場合には、診察診断を委ね、その判断に従い対応を行います。
- ・医師、看護師がいない場合には、検温等を行った上で、帰宅措置とし、後日、医療機関にて診察をし、その診断書等の提出を協力要請するものとします。

⑩当日効率を上げる

- ・ロスタイムが生じないように、舞台監督・ステージスタッフ、楽屋・メイク場所とでうまく連携します。
- ・演出的工夫、撮影的工夫を試みます。
- ・照明の都合、飾り替えの都合、衣装替えの都合、つながりの都合、出演者の出入りの都合などを総合的に鑑みて、コンサート効率が最大になる順序を、制作部が総合的に判断し、工夫します。

⑪その他

- ・出演者・スタッフ等が海外に渡航した場合、2週間、撮影に参加しないようにします。
- ・口元シールドは、口から自分の体内にウイルスが侵入するのを防ぐためのものです。不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多いスタッフには推奨されますが、マスクほどの効果は期待できません。
- ・フェイスシールドや口元シールドと、マスクとの併用は「不特定多数の相手に近距離で近づく機会が多い」「周囲に対して大きな声を出すことが多い」など、自身の役職を鑑みて判断してください。
- ・リハーサル、設営、本番期間は、不要不急の移動は避け、外出・外食などによる不特定多数との接触の機会を極力避けてください。

【周知・徹底】

- ・出演者・スタッフは全員、リハーサル・本番・収録に入る二日前までにこのガイドラインの内容を確認します。
- ・コンサート現場では、このガイドラインの内容を見やすい場所に掲示して、周知徹底します。
- ・手洗い励行や人数制限など特に大事なルールは、ポスターなどで掲示して、周知徹底します。
- ・出演者、関係者全体の体調を、制作・舞台監督は毎日把握します。

(LINE or メールなども活用して点呼)

- ・万が一現場から感染者が出て保健所から情報提示を求められた際、集約しておいた情報を提供します。
- ・以上のガイドラインに沿った現場を成立させる責任者として「感染症対策責任者」を置きます。
- ・「感染症対策責任者」は随時現場を観察しながら、適宜、換気や消毒を奨励し、ガイドラインが順守されるように最大限の努力をします。
- ・全関係者は「感染症対策責任者」の指示の下、自身が統括するメンバーにガイドラインの理解と遵守を求めます。
- ・業務の一部を請け負い、自社スタッフに業務を行わせる協力会社の責任者の方にも、「感染症対策責任者」の指示の下、自社スタッフがガイドラインを理解し遵守していただけるように責任をお持ちいただく旨、お約束頂きます。

【最後に】

- ・3密を避け、換気や消毒等の対策をしっかり行うことで感染リスクを下げることはできますが、リスクをゼロにすることはできません。
- ・あまり考えたくないことですが、リハーサル現場・本番会場から感染者が発見された場合は保健所の指示に基づいて、行動確認や検査などに対応しなければなりませんので、その時はご協力をよろしくお願いいたします。
- ・同時に新型コロナウイルスの感染状況を注意して見守り、感染者数の増加が見られるなど、開催が困難な場合はライブの実施を中止する判断を行います。
- ・新型コロナウイルスの感染経路は予想を超えて多岐にわたっており、完全に感染を防ぐことはできません。万一現場から感染者が見つかったも、それを感染者個人の責任に帰することはできません。感染予防のために「できるだけのことをする努力」をした結果、それでも感染が明るみに出た場合には、感染者を責めたり、対策を非難したりすることはせず、お互いに慎み、思いやりのある態度をとりましょう。よろしくお願いいたします。

以上

【参考資料】

厚生労働省新型コロナウイルス感染症の予防啓発資料

厚生労働省「換気の悪い密閉空間」を改善するための換気の方法

新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン「音楽コンサートにおける新型コロナウイルス感染予防対策ガイドライン」

公益社団法人全国公立文化施設協会「劇場、音楽堂等における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」ガイドライン